



2020年8月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年3月31日

上場会社名 ケイティケイ株式会社
 コード番号 3035 URL <https://www.ktk.gr.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 青山 英生
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部長 (氏名) 青山 敏久
 四半期報告書提出予定日 2020年4月3日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 052-931-1881

(百万円未満切捨て)

1. 2020年8月期第2四半期の連結業績(2019年8月21日～2020年2月20日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年8月期第2四半期	8,388	2.4	195	11.5	216	8.8	151	13.5
2019年8月期第2四半期	8,191	1.8	175	18.8	198	16.7	133	10.2

(注) 包括利益 2020年8月期第2四半期 233百万円 (192.4%) 2019年8月期第2四半期 79百万円 (42.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年8月期第2四半期	26.53	
2019年8月期第2四半期	23.38	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年8月期第2四半期	8,203	3,239	39.5
2019年8月期	7,952	3,068	38.6

(参考) 自己資本 2020年8月期第2四半期 3,239百万円 2019年8月期 3,068百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年8月期		0.00		11.00	11.00
2020年8月期		0.00			
2020年8月期(予想)				11.00	11.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年8月期の連結業績予想(2019年8月21日～2020年8月20日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	16,700	0.0	288	0.7	315	0.0	216	0.2	37.85

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 有
会計上の見積りの変更 : 有
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年8月期2Q	5,725,000 株	2019年8月期	5,725,000 株
期末自己株式数	2020年8月期2Q	2,886 株	2019年8月期	2,864 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年8月期2Q	5,722,134 株	2019年8月期2Q	5,722,136 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、本資料の発表日現在における入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因により予想数値と異なる結果となる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については四半期決算短信(添付資料)3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2019年8月21日～2020年2月20日)におけるわが国経済は、製造業を中心に弱含みの状態が続いているものの、各種経済政策の効果もあり、雇用・所得環境の改善傾向が進み、緩やかな回復基調で推移いたしました。一方、米中貿易摩擦をはじめとした通商問題や、新型コロナウイルス感染症が内外経済に与える影響に十分注意する必要があります。景気の先行きは不透明な状況が続いています。

このような環境下において、前期事業計画を発展させた新たな事業計画「ktkイノベーションプランVer.2」を策定し、営業、生産、管理・経営、調達・物流の各部門に「未開拓市場への進出、自社製品の更なる拡販」「生産性向上、総原価削減、品質改善、最速開発」「リパクトナー生産、既存事業の拡大、工場発の売上貢献」「新規事業の具体化と社員の生産性・満足度の向上」「更なるコストダウンとサービスレベル向上」を戦略に掲げ、全社が一丸となって邁進してまいりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間は、消費税率引き上げによる一時的な駆け込み需要やWindows10への切り替えに伴う特需もあって事業計画「ktkイノベーションプランVer.2」は順調に進捗し、売上高は8,388,035千円(前年同四半期比2.4%増)となりました。

利益につきましては、売上高が増加したことに加え、前期事業計画に引き続き、製造コストと調達コストの削減を実現し、業務効率を向上させたことにより、営業利益は195,848千円(前年同四半期比11.5%増)、経常利益は216,521千円(前年同四半期比8.8%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は151,827千円(前年同四半期比13.5%増)となりました。

なお、連結子会社である株式会社青雲クラウンの業績は、多くの顧客の年度末及び年度始めにあたる当社第3四半期連結会計期間以降に売上高が多く計上されるという季節的変動があります。

また、当社グループの事業は単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債、純資産

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ250,479千円増加し、8,203,233千円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ125,074千円増加し、5,181,333千円となりました。これは、主に受取手形及び売掛金が248,287千円増加し、現金及び預金が136,668千円減少したこと等によります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ125,405千円増加し、3,021,899千円となりました。これは、無形固定資産が3,405千円、投資その他の資産が124,613千円増加し、有形固定資産が2,612千円減少したことによります。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ99,789千円増加し、4,407,437千円となりました。これは、主に支払手形及び買掛金が134,899千円、短期借入金が138,274千円増加し、電子記録債務が156,639千円減少したこと等によります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ19,534千円減少し、556,740千円となりました。これは、主に長期借入金が55,464千円減少したこと等によります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ170,224千円増加し、3,239,055千円となりました。これは、主に利益剰余金が88,884千円、その他有価証券評価差額金が81,349千円増加したこと等によります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という)は、前連結会計年度末に比べ128,572千円減少し、1,638,446千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、136,508千円(前年同四半期は275,370千円の使用)となりました。収入の主な要因は、税金等調整前四半期純利益227,197千円であり、支出の主な要因は、売上債権の増加額249,154千円、仕入債務の減少額21,740千円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、10,376千円(前年同四半期は42,206千円の使用)となりました。収入の主な要因は、保険積立金の解約による収入24,033千円であり、支出の主な要因は、有形固定資産の取得による支出25,509千円、差入保証金の差入による支出13,780千円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は、18,312千円(前年同四半期は172,409千円の獲得)となりました。収入の主な要因は、短期借入金の純増額200,000千円であり、支出の主な要因は長期借入金の返済による支出167,190千円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年8月期の業績予想につきましては、2019年10月3日に発表いたしました連結業績予想より変更はありません。なお、新型コロナウイルス感染症の当社業績への影響については現在精査中です。今後、当社業績予想への影響が判明し、修正が必要な場合は速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年8月20日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年2月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,096,942	1,960,274
受取手形及び売掛金	2,366,863	2,615,151
商品及び製品	444,016	424,616
仕掛品	784	383
原材料及び貯蔵品	68,059	81,442
その他	86,724	107,864
貸倒引当金	△7,132	△8,399
流動資産合計	5,056,259	5,181,333
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,116,543	1,116,543
その他(純額)	513,906	511,294
有形固定資産合計	1,630,450	1,627,837
無形固定資産		
のれん	74,051	71,203
その他	26,355	32,608
無形固定資産合計	100,407	103,812
投資その他の資産		
その他	1,206,516	1,331,726
貸倒引当金	△40,879	△41,476
投資その他の資産合計	1,165,636	1,290,249
固定資産合計	2,896,494	3,021,899
資産合計	7,952,753	8,203,233

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年8月20日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年2月20日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,511,448	1,646,347
電子記録債務	1,306,158	1,149,518
短期借入金	973,897	1,112,171
未払法人税等	77,399	73,588
賞与引当金	91,707	104,209
役員賞与引当金	10,850	—
その他	336,186	321,601
流動負債合計	4,307,647	4,407,437
固定負債		
長期借入金	223,743	168,279
役員退職慰労引当金	66,671	49,182
退職給付に係る負債	120,479	119,799
その他	165,380	219,479
固定負債合計	576,274	556,740
負債合計	4,883,921	4,964,177
純資産の部		
株主資本		
資本金	294,675	294,675
資本剰余金	663,325	663,325
利益剰余金	2,007,007	2,095,891
自己株式	△1,282	△1,292
株主資本合計	2,963,725	3,052,599
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	105,106	186,456
その他の包括利益累計額合計	105,106	186,456
純資産合計	3,068,831	3,239,055
負債純資産合計	7,952,753	8,203,233

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年8月21日 至2019年2月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年8月21日 至2020年2月20日)
売上高	8,191,005	8,388,035
売上原価	6,480,094	6,656,206
売上総利益	1,710,910	1,731,829
販売費及び一般管理費	1,535,289	1,535,981
営業利益	175,621	195,848
営業外収益		
受取利息	157	447
受取配当金	13,351	13,645
仕入割引	18,605	17,789
受取家賃	28,282	21,886
その他	3,293	7,803
営業外収益合計	63,690	61,573
営業外費用		
支払利息	3,864	3,670
売上割引	30,774	33,688
その他	5,715	3,540
営業外費用合計	40,354	40,900
経常利益	198,957	216,521
特別利益		
投資有価証券売却益	—	10,676
特別利益合計	—	10,676
税金等調整前四半期純利益	198,957	227,197
法人税、住民税及び事業税	63,546	66,587
法人税等調整額	1,622	8,783
法人税等合計	65,168	75,370
四半期純利益	133,788	151,827
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	133,788	151,827

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年8月21日 至 2019年2月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年8月21日 至 2020年2月20日)
四半期純利益	133,788	151,827
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△54,047	81,349
その他の包括利益合計	△54,047	81,349
四半期包括利益	79,740	233,177
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	79,740	233,177
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年8月21日 至 2019年2月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年8月21日 至 2020年2月20日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	198,957	227,197
減価償却費	34,577	30,406
のれん償却額	2,848	2,848
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	5,071	1,864
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△27,614	△17,488
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△15,698	△10,850
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△856	12,501
受取利息及び受取配当金	△13,508	△14,093
支払利息	3,864	3,670
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△10,676
売上債権の増減額 (△は増加)	△239,993	△249,154
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△11,832	6,417
仕入債務の増減額 (△は減少)	△80,984	△21,740
その他	△98,952	△45,307
小計	△244,121	△84,403
利息及び配当金の受取額	13,508	14,093
利息の支払額	△3,864	△3,624
法人税等の支払額	△40,893	△62,573
営業活動によるキャッシュ・フロー	△275,370	△136,508
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△9,904	△9,905
定期預金の払戻による収入	6,000	18,000
有形固定資産の取得による支出	△22,474	△25,509
無形固定資産の取得による支出	△1,430	△10,576
投資有価証券の取得による支出	△6,984	△7,225
投資有価証券の売却による収入	—	10,865
差入保証金の差入による支出	△12,918	△13,780
差入保証金の回収による収入	15,332	3,507
保険積立金の積立による支出	△7,167	△5,545
保険積立金の解約による収入	—	24,033
長期前払費用の取得による支出	△2,735	△1,889
その他	75	7,647
投資活動によるキャッシュ・フロー	△42,206	△10,376
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	200,000	200,000
長期借入れによる収入	250,000	50,000
長期借入金の返済による支出	△217,625	△167,190
リース債務の返済による支出	△3,154	△1,643
配当金の支払額	△56,810	△62,844
その他	0	△9
財務活動によるキャッシュ・フロー	172,409	18,312
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△145,167	△128,572
現金及び現金同等物の期首残高	1,737,863	1,767,019
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,592,696	1,638,446

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

《簡便的な会計処理》

① たな卸資産の評価方法

当第2四半期連結会計期間末のたな卸高の算出に関しては、実地たな卸を省略し、前連結会計期間末の実地たな卸高を基礎として合理的な方法により算出する方法によっております。

また、たな卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

② 経過勘定項目の算定方法

合理的な算定方法による概算額で計上する方法によっております。

③ 法人税並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

法人税等の納付額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。

繰延税金資産の回収可能性の判断については、前連結会計期間末以降に経営環境等に著しい変化が生じておらず、一時差異等の発生状況に大幅な変動がないと認められるため、前連結会計期間において使用した将来の業績予想やタックス・プランニングを利用しております。

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

当社及び連結子会社は、有形固定資産(リース資産を除く)の減価償却方法について、従来は主として定率法を採用していましたが、当連結会計年度より定額法に変更しております。

当社における「ktkイノベーションプランVer.2」による投資の増加や連結子会社の基幹システムの改修等を契機として、有形固定資産の使用状況等の調査をした結果、当社グループの有形固定資産は、今後も耐用年数にわたり安定的な稼働が見込まれることから、耐用年数にわたり均等額の費用が計上される定額法に変更することが、経済的実態をより適切に反映する合理的な方法であると判断するに至りました。

この変更により、従来の方法と比べて、当連結会計年度の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ3,941千円増加しております。